

設置の背景・概要 等

現在、本邦におけるパーキンソン病をはじめとした運動障害疾患に対する治療は内科治療、外科治療、理学療法いずれにおいてもほとんど欧米における大規模試験の結果に基づいたガイドラインにそって行われており、日本から発信された治療に直接影響を及ぼすような情報は殆どこれまで存在してこなかった。本寄付講座の使命として、多くの症例を集めてセンター化し、運動障害疾患に対してどのような治療法が日本人またはアジア人にとって最適であるのかを効率的に検討し、そのための全ての治療法（内科、外科、理学療法）に最先端の知識、技術に精通した医師、研究者を集め、分野横断的な体制で診療を行う movement disorder unit (MDU)を設置し、集まった症例に対する臨床研究を行う事で我が国から様々な情報発信できる様な体制作りを主目的とする。さらに全国からの運動障害疾患に対する臨床や研究の教育的センターになることを目指す。教育の対象は臨床医のみならず看護師、薬剤師、理学療法士も視野に入れ運動障害疾患、特にパーキンソン病を重点疾患として臨床アプローチのノウハウを提供したい。すでに開設されている神経変性疾患病態治療探索講座が行っている、パーキンソン病の遺伝子検索、動物実験による病態生理の解明および治療法の開発などの基礎研究と連携することにより総合的な運動障害疾患に対する日本初の治療研究センターも可能となる。

当神経学教室は現在日本最大のパーキンソン病基礎研究機関となっており、脳神経内科講座からのパーキンソン病関連の論文における引用実績を考慮してもすでに世界的も有数の研究施設となっている。しかし神経内科医師の臨床医としての多忙さや関連病院への医師派遣等もあり、臨床関連の情報発信に関しては十分とは言えないのが実状である。海外では平均2～3人/時間の外来患者、週一回の外来診療および年数か月の臨床医としてのduty work以外は様々な研究（臨床、基礎）に時間を割くことができる。さらに海外ではコメディカルの役割も重要視されており運動障害疾患専門のナースも存在する。このように医療環境の違いもあり、特にこの分野での臨床研究では本邦は海外に後塵を拝していることは否めない。

当教室はすでにパーキンソン病患者数は1施設単位では世界最大となっており、このような情報を発信する場所としては少なくとも日本では最適と言える。以上のような点を考慮し、運動障害疾患に特化した臨床センターを早急にたちあげて治療、研究に専念する体制を確立したい。その結果、本学ひいては日本の当該分野での地位の向上及び患者への多大なる治療面への還元が可能となる。

区分	番号	学位論文	全著者名、論文名、掲載誌名、掲載年；巻（号）：ページ番号	国際共同
英文原著	1		Tanaka R, Shimo Y, Yamashiro K, Ogawa T, Nishioka K, Oyama G, Umemura A, Hattori N: Association between abnormal nocturnal blood pressure profile and dementia in Parkinson's disease. Parkinsonism Relat Disord 46: 24-29, 2018	
英文原著	2		Yamashiro K, Tanaka R, Shimo Y, Oyama G, Ogawa T, Umemura A, Hattori N: Cerebral microbleeds and cardiovascular autonomic dysfunction in patients with Parkinson's disease. eNeurologicalSci 10: 5-11, 2018	

英文原著	3		Nakajima A, Shimo Y, Sekimoto S, Kamagata K, Jo T, Oyama G, Umemura A, Hattori N: Dopamine transporter imaging predicts motor responsiveness to levodopa challenge in patients with Parkinson's disease: A pilot study of DATSCAN for subthalamic deep brain stimulation. J Neurol Sci 385: 134-139, 2018	
英文原著	4		Daida K, Tanaka R, Yamashiro K, Ogawa T, Oyama G, Nishioka K, Shimo Y, Umemura A, Hattori N: The presence of cerebral microbleeds is associated with cognitive impairment in Parkinson's disease. J Neurol Sci 393: 39-44, 2018	
英文原著	5		Tokushige S, Matsuda S, Oyama G, Shimo Y, Umemura A, Sasaki T, Inomata-terada S, Yugeta A, Hamada M, Ugawa Y, Tsuji S, Hattori N, Terao Y: Effect of subthalamic nucleus deep brain stimulation on visual scanning. Clin Neurophysiol 129: 2421-2432, 2018	
英文原著	6		Yoritaka A, Ohtsuka C, Maeda T, Hirayama M, Abe T, Watanabe H, Saiki H, Oyama G, Fukae J, Shimo Y, Hatano T, Kawajiri S, Okuma Y, Machida Y, Miwa H, Suzuki C, Kazama A, Tomiyama M, Kihara T, Hirasawa M, Shimura H, Oda E, Ito M, Ohno K, Hattori N. Randomized, double-blind, multicenter trial of hydrogen water for Parkinson's disease. Mov Disord. 2018 Sep;33(9):1505-1507.	
英文原著	7		Kitahara E, Shimo Y, Mori H, Nagaoka M. Preservation of explicit learning of visuomotor sequences during Parkinson's disease progression. Sci Rep. 2018 Jul 9;8(1):10337.	
英文原著	8		Yoshino H, Nishioka K, Li Y, Oji Y, Oyama G, Hatano T, Machida Y, Shimo Y, Hayashida A, Ikeda A, Mogushi K, Shibagaki Y, Hosaka A, Iwanaga H, Fujitake J, Ohi T, Miyazaki D, Sekijima Y, Oki M, Kusaka H, Fujimoto KI, Ugawa Y, Funayama M, Hattori N. GCH1 mutations in dopa-responsive dystonia and Parkinson's disease. J Neurol. 2018 Aug;265(8):1860-1870.	
英文原著	9		Mushiroda T, Takahashi Y, Onuma T, Yamamoto Y, Kamei T, Hoshida T, Takeuchi K, Otsuka K, Okazaki M, Watanabe M, Kanemoto K, Oshima T, Watanabe A, Minami S, Saito K, Tani H, Shimo Y, Hara M, Saitoh S, Kinoshita T, Kato M, Yamada N, Akamatsu N, Fukuchi T, Ishida S, Yasumoto S, Takahashi A, Ozeki T, Furuta T, Saito Y, Izumida N, Kano Y, Shiohara T, Kubo M; GENCAT Study Group. Association of HLA-A*31:01 Screening With the Incidence of Carbamazepine-Induced Cutaneous Adverse Reactions in a Japanese Population. JAMA Neurol. 2018 Jul 1;75(7):842-849.	
英文原著	10		Nakazato T, Tsuji Y, Kanai K, Noto YI, Hoshino Y, Yamashiro K, Yokoyama K, Nishioka K, Shimo Y, Watanabe O, Mizuno T, Hattori N. Isaacs syndrome: A slow potassium channelopathy caused by autoantibodies? Clin Neurophysiol. 2018 May;129(5):956-958.	
英文原著	11		Suzuki K, Okuma Y, Uchiyama T, Miyamoto M, Sakakibara R, Shimo Y, Hattori N, Kuwabara S, Yamamoto T, Kaji Y, Hirano S, Suzuki S, Haruyama Y, Kobashi G, Hirat K; Kanto NMPD investigators. The prevalence, course and clinical correlates of migraine in Parkinson's disease: A multicentre case-controlled study. Cephalalgia. 2018 Aug;38(9):1535-1544.	
英文原著	12		Yokochi F, Kato K, Iwamuro H, Kamiyama T, Kimura K, Yugeta A, Okiyama R, Taniguchi M, Kumada S, Ushiba J. Resting-State Pallidal-Cortical Oscillatory Couplings in Patients With Predominant Phasic and Tonic Dystonia. Front Neurol. 2018 May 31;9:375.	
区分	番号		全著者名、タイトル、雑誌名、掲載年；巻（号）：ページ番号	国際共同
英文症例報告	1		Hatano T, Takanashi M, Tsuchihashi H, Ueno SI, Hayashida A, Tsukune Y, Kanai K, Shimo Y, Hattori N. Myalgia caused by chronic myositis associated with plasmacytosis: a case report. BMC Neurol. 2018 Aug 14;18(1):112.	
英文症例報告	2		Ogawa T, Ueno Y, Kamo H, Miyamoto N, Yamashiro K, Tanaka R, Shimo Y, Hattori N. Conjugate Eye Deviation Caused by Upper Medial Medullary Infarction: A Case Report. J Stroke Cerebrovasc Dis. 2018 Sep;27(9):e221-e223.	
区分	番号		発表者名、発表タイトル（題目・演題・課題等）、学会名、場所、発表年月日等	国際共同
国際学会発表	1		Yasushi Shimo; Tetsuya Maeda MD, PhD; Shih-Wei Chiud; Takuhiro Yamaguchi; Kenichi Kashiwara; Yoshio Tsuboi MD; Masahiro Nomoto; Nobutaka Hattoria; Hirohisa Watanabe; Hidemoto Saiki, on behalf of the J-FIRST group. Effect of istradefylline on non-motor symptoms of Parkinson's disease: a sub-analysis of a 1-year observational study in Japan (J-FIRST) XXIII World Congress on Parkinson Disease and Related Disorders 2018/ 8/21 Lyon France	
区分	番号		発表者名、発表タイトル（題目・演題・課題等）、学会名、場所、発表年月日等	国際共同
国内学会発表	1		梅村淳, 伊藤賢伸, 大山彦光, 下泰司, 岩室宏一, 中島円, 三橋匠, 服部信孝, 新井一: パーキンソン病に対するSTN-DBS術後に遷延性psychosisをきたした症例についての検討. 第57回日本定位・機能神経外科学会 2018.1.20 奈良	
国内学会発表	2		梅村淳, 岩室宏一, 三橋匠, 大山彦光, 下泰司, 波田野琢, 伊藤賢伸, 服部信孝, 新井一: 進行期パーキンソン病に対するデバイス補助療法の選択. 社団法人日本脳神経外科学会 第77回学術総会 2018.10.11 仙台	

国内学会発表	3	岩室宏一、下泰司、梅村淳、大山彦光、新井一、服部信孝：パーキンソン病患者における術中微小局所電場電位と上肢運動との関係。2018.01.19 第57回日本定位・機能神経外科学会（奈良）	
国内学会発表	4	岩室宏一、梅村淳、下泰司、波田野琢、大山彦光、原毅、新井一、服部信孝：パーキンソン病患者の腰椎変性についての検討。2018.06.14 第33回日本脊髄外科学会（奈良）	
国内学会発表	5	岩室宏一：パーキンソン病の脊椎変性を病態から考える。2018.09.14 第25回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会（東京）	
区分	番号	発表者名、演題、学会名、場所、発表年月日等	国際共同
特別講演・招待講演	1	梅村淳：DBSの極意 “順天方式”シングルトラック法による手術。第57回日本定位・機能神経外科学会 ランチョンセミナー 2018.1.20 奈良	
特別講演・招待講演	2	梅村淳：Vercise Cartesia (D-lead) の初期使用経験。DBS Round Table Meeting 2018.1.20 奈良	
特別講演・招待講演	3	梅村淳：パーキンソン病に対する脳深部刺激療法（DBS）。第1回LCIG研究会 2018.3.2 東京	
特別講演・招待講演	4	梅村淳：DBSにおける他科連携。DAT研究会 第1回関東世話人会 2018.4.14 東京	
特別講演・招待講演	5	梅村淳：パーキンソン病に対する脳深部刺激療法 Update。第95回日本脳神経外科学会中部支部学術集会 ランチョンセミナー 2018.9.8 名古屋	
特別講演・招待講演	6	梅村淳：パーキンソン病に対する視床下核刺激療法。Image Guided Neurosurgery 研究会 2018.10.30 福岡	
特別講演・招待講演	7	梅村淳：DBSと刺激調整について。DBSセミナー -DBSと刺激調整- 2018.12.16 名古屋	
特別講演・招待講演	8	下泰司：新ガイドラインに関する話題も踏まえたパーキンソン病治療の最新情報 松阪パーキンソン病学術講演会 平成30年2月16日 三重	
特別講演・招待講演	9	下泰司：DAT によるaPDの治療戦略 第1回LCIG研究会 平成30年3月2日 東京	
特別講演・招待講演	10	下泰司：進行期パーキンソン病治療の概要 進行期パーキンソン病地域医療連携会 平成30年3月14日 東京	
特別講演・招待講演	11	下泰司：パーキンソン病の脳深部刺激の効果発現機序 第2回 The neuromodulation Expert Conference in Tokyo 平成30年 3月24日 東京	
特別講演・招待講演	12	下泰司：パーキンソン病の様々な症状と薬物治療 パーキンソン病患者さんと家族のための公開講座 平成30年3月25日 東京	
特別講演・招待講演	13	下泰司：進行期パーキンソン病治療の新たな展開 進行期パーキンソン病講演会in 秋田 平成30年4月20日 秋田	
特別講演・招待講演	14	下泰司：パーキンソン病の最新治療について パーキンソン病と脳：神経の病気を知るセミナーin東京 平成30年4月30日 東京	
特別講演・招待講演	15	下泰司：Parkinson's disease and it's look-alike 教育コース05 第59回日本神経学会学術大会 平成30年5月23日 札幌	
特別講演・招待講演	16	下泰司：Movement disorders in metabolic disorders. International educational course 02 第59回日本神経学会学術大会 平成30年5月24日 札幌	

特別講演・招待講演	17	下泰司：パーキンソン病・新ガイドラインのポイントについて ランチョンセミナー13 第59回日本神経学会学術大会 平成30年5月24日 札幌	
特別講演・招待講演	18	下泰司：パーキンソン病 ラジオNikkei ドクターサロン 平成30年6月19日 東京	
特別講演・招待講演	19	下泰司：ラザギリンの国内臨床試験成績（単独療法）について 平成30年6月29日 Meet the Expert in Tokyo 東京	
特別講演・招待講演	20	下泰司：パーキンソン道場 パーキンソン病と見抜くポイント 第12回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres 平成30年7月7日 京都	
特別講演・招待講演	21	下泰司：パーキンソン病の薬物療法におけるラザギリンの位置づけ アジレクト発売記念講演会 平成30年7月9日 千葉	
特別講演・招待講演	22	下泰司：パーキンソン病の薬物療法におけるラザギリンの位置づけ Takeda Neurology WEB Seminar 平成30年8月3日 東京	
特別講演・招待講演	23	下泰司：パーキンソン病の薬物療法におけるラザギリンの位置づけ～パーキンソン病診療ガイドライン2018を踏まえて～平成30年9月7日 西湘神経ExpertMeeting 大磯	
特別講演・招待講演	24	下泰司：パーキンソン病の薬物療法におけるラザギリンの位置づけ～パーキンソン病診療ガイドライン2018を踏まえて～平成30年10月4日 千葉	
特別講演・招待講演	25	下泰司：パーキンソン病の薬物療法におけるラザギリンの位置づけ Takeda Parkinson disease web symposium 平成30年10月15日 東京	
特別講演・招待講演	26	下泰司：パーキンソン病治療におけるロチゴチンの位置づけ 出雲パーキンソン病セミナー 平成30年10月18日 島根	
特別講演・招待講演	27	下泰司：パーキンソン病の神経生理研究 順天堂大学神経学講座開講50周年記念講演会 平成30年10月20日 東京	
特別講演・招待講演	28	下泰司：最新ガイドラインに基づいたパーキンソン病治療薬の使い分け 阿賀北パーキンソン病セミナー 平成30年10月25日 新潟	
特別講演・招待講演	29	下泰司：パーキンソン病の治療：DBSを中心として 岩手県パーキンソン病学術講演会 平成30年10月31日 岩手	
特別講演・招待講演	30	下泰司：ハズオンセミナー3 パーキンソン病に対する脳深部刺激療法(Deep Brain Stimulation)刺激調整の基本 第48回日本臨床神経生理学会学術大会 平成30年11月9日 東京	
特別講演・招待講演	31	下泰司：第36回静岡県パーキンソン病懇話会 新ガイドラインに関する話題も 踏まえたパーキンソン病治療の最新情報 平成30年11月14日 静岡	
特別講演・招待講演	32	下泰司：これからのパーキンソン病治療におけるMAOB阻害薬の位置づけ 第36回日本神経治療学会学術集会 ランチョンセミナー 平成30年11月24日 東京	
特別講演・招待講演	33	下泰司：ガイドラインを踏まえたParkinson病の標準的治療と新規治療 第36回日本神経治療学会学術集会 教育講演 平成30年11月25日 東京	
特別講演・招待講演	34	下泰司：パーキンソン病の薬物療法におけるラザギリンの位置づけ～パーキンソン病診療ガイドライン2018を踏まえて 平成30年12月6日 越谷	
特別講演・招待講演	35	岩室宏一：大脳基底核は面白い。2018.04.14 システム神経科学研究会（知多）	
特別講演・招待講演	36	岩室宏一：最新の脳深部刺激療法。2018.04.24 旭川脳深部刺激療法研究会（旭川）	

特別講演・招待講演	37	岩室宏一：パーキンソン病患者の疼痛に対する脊髄刺激療法 BurstDR使用経験. 2018.08.04 BurstDR Users Meeting in Kushiro (釧路)	
特別講演・招待講演	38	岩室宏一：パーキンソン病の歩行・姿勢への脊椎外科からのアプローチ. 2018.10.16 第8回Japanese Neurologist Parkinson's Disease Seminar (東京)	
特別講演・招待講演	39	岩室宏一：パーキンソン病患者の疼痛に対する脊髄刺激療法. 2018.10.27 SCS Neuro Surgery カンファレンス (東京)	
区分	番号	発表者名・著者名、活動内容・タイトル等、掲載・発表情報等	国際共同
その他 (広報活動を含む)	1	下泰司：パーキンソン病治療におけるドパミンアゴニストの意義と限界 座談会 平成30年7月14日 札幌	